

反田遺跡出土の甲斐型土器について

今回の調査では平安時代を中心に5軒の住居址からいわゆる甲斐型土器が出土した。器種は甕・小型甕・壺であり、住居址の年代は10世紀前半を中心とする。ここでは近年資料の蓄積がなされつつある佐久地域出土の甲斐型土器について若干のまとめをおこなってみたい。

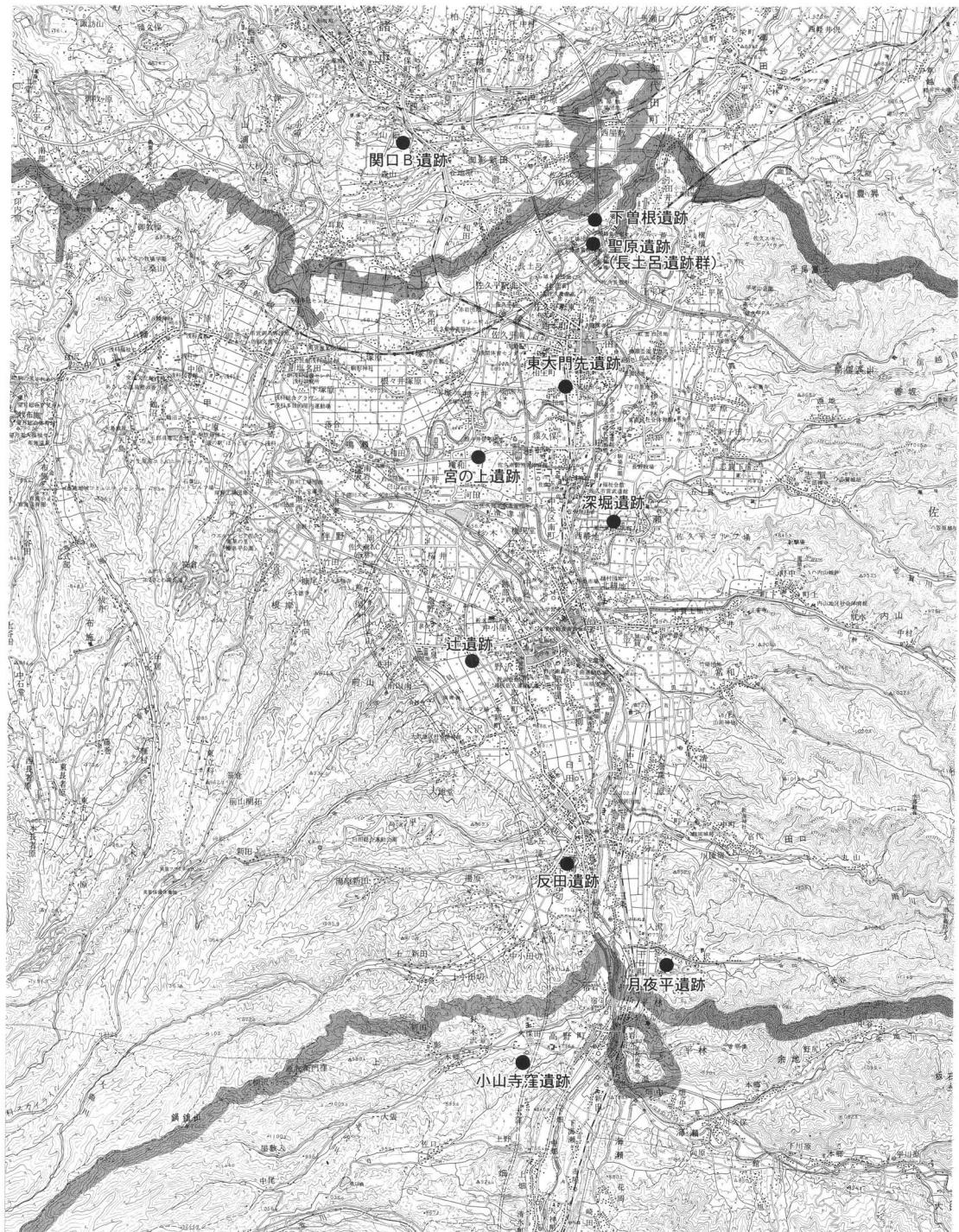
佐久地域において甲斐型土器が出土している遺跡は把握できたものとして別表15遺跡である。出土が集中する遺跡としては今回の反田遺跡と聖原遺跡があるが、遺跡規模から調査住居軒数と出土軒数で比較すると出土出現率は聖原遺跡の1%に比し、反田遺跡が35%であり当遺跡の特殊性が伺える。ただ、この出土量については南佐久郡内において大規模な調査事例が少なく、小海町雨堤遺跡においても1軒の住居址から5点の甲斐型壺が出土しており、山梨県側に近いという地理的要因だけの理由も考えられる。

次に出土遺跡の分布であるが、佐久地域も従来からの「甲斐型土器は古代官道や街道に沿った分布」という指摘通り、南佐久の川上村信州峠（小尾道）直下の横尾遺跡に始まり、小海の雨堤遺跡、今回の反田遺跡と千曲川を下り、野沢平の辻遺跡、そのまま千曲川を渡河し旧北佐久郡内に入る。先に触れた聖原遺跡周辺にいくつかの分布があり、北限は小諸市の関口B遺跡である。そして、関口B遺跡の先には浅間山麓を通過する「東山道」がある。このルートは起点の信州峠が異なるがまさしく旧佐久甲州街道と重なっている。また、反田遺跡は東山道推定ルートから約16km（30里）の位置にあり興味が持たれる。話題はやや飛躍したが、佐久平における甲斐型土器の分布は古代の街道を示唆するものであり、佐久経由で東山道と甲斐国府をつなぎ、その先の「甲斐路」を経て東海道へ繋がる古代の「中部横断道」の様な位置づけができる。

ただここで疑問なのは、東山道との連絡ルートを考えた場合、都に近い諏訪・富士見経由の方が活用利点がありそうである。現に東海道に属する甲斐国の人京人が帰郷する際に東山道を使っていた資料があり、その理由として当時活動が活発であった富士山の噴火が上げられている。では「佐久路」はいかなる理由により必要であったのか。現時点で考えられるのは律令国家による「東北経営」つまり蝦夷との関係である。信濃も甲斐も鎮兵の派遣や俘囚の受け入れで当時大きな役割を果たしている。甲斐より東北派遣の場合にこの「佐久路」が使われたのではないだろうか。現時点では推測の域を出ないが一考の余地があるように考えられる。

以上、佐久地域の甲斐型土器の出土について若干の考察を加えた。しかし、長野県全体での分布や時期による器種変化など本来の基礎整理作業がなされていない部分の方が多く、包括的な考察は別稿にゆだね、雑記ではあるが本稿のまとめとしたい。なお、紙面の都合で参考文献は割愛した。

行政名	番号	遺跡名	遺構名	出土器種	土器の年代	遺構時期	備考
川上村	1	横尾遺跡	H1号住居址	小型甕？		平安	信州峠直下
	2	草切遺跡	表採 表採	羽釜 甕			
小海町	3	弥左衛門遺跡	H1号住居址	小型甕		平安	
	4	雨堤遺跡	1号住居址	壺		平安	壺5点
	5	八の軽井沢遺跡	表採	甕			
佐久市	6	月夜平遺跡	J3号住居址	小型甕			住居址は縄文
	下小田切	反田遺跡	H5号住居址	甕	10世紀前半	10世紀前半	甕は5点
			H7号住居址	電形土器	9世紀代	10世紀後半	各部位6点
			H9号住居址	小型甕	10世紀前半	10世紀前半	2点
			H12号住居址	甕	10世紀前半	10世紀前半	
			H14号住居址	壺	8世紀末から9世紀初頭	9.10世紀重複	
	8	辻遺跡	H25号住居址	壺	9世紀前半	8世紀後半	
	9	深堀遺跡	H15号住居址	甕		10世紀後半	
	10	宮の上遺跡	4号土坑	壺	8~9世紀	平安	
	11	東大門先遺跡II	H11号住居址	甕	10世紀前半		
岩村田	12	聖原遺跡	H183号住居址	甕		10世紀前半	
			H230号住居址	小型甕・甕		10世紀前半	
			H346号住居址	小型甕	9世紀前半	8世紀IV~9世紀初頭	
			H380号住居址	鉢		9世紀前半	暗文多文字資料
			H589号住居址	壺	9世紀前半	8世紀IV~9世紀初頭	
			H610号住居址		8世紀末から9世紀初頭	9世紀前半	
			H612号住居址	壺	8世紀後半	8世紀III	
長土呂	13	長土呂遺跡群	52号住居址	壺	8世紀後半	8世紀III	壺2点
森山	14	下曾根遺跡	H59号住居址	壺	8世紀末から9世紀初頭	9世紀前半	
小諸市	15	関口B遺跡	16号住居址	壺		奈良後葉	



第50図 佐久地域の甲斐型土器出土遺跡分布図

※前項表の甲斐型土器の年代については(財)山梨文化財研究所 平野 修氏に御教示いただいた。

※脱稿後、佐久穂町小山寺窪遺跡より甲斐型甕と考えられる土器が平安住居址より出土している事を知り分布図に載せた。本遺跡出土の甕が甲斐型とすると出土遺跡は16遺跡となる。